

◆算命学の学び方

算命学を学ぶ多くの方は、この状況や星の置かれた環境を考慮せずに、ただただ答えや技法を丸暗記してしまうようです。これではいつまでたっても中国占星術の域を出ることができず、算命学の真髄に到達することは不可能です。

なるほど授業においては、時に「この星は・・・」という言い方をすることがあります。それは具体的な言い方をすることによって技術を覚えて頂くためです。私自身もそのような学び方をしてきましたし、今でもそれが一番覚えやすい勉強方法だったと思っています。ただ、その段階だけにとどまることなく、善悪は環境と状況次第だという原則は必ず持つておいてください。

例えば「水泳は身体に良い」と言っても、いつでも適用されるわけではありません。春から秋のはじめまでは良いけれども、冬の水泳は身体を痛めやすいから凶になります。

しかしその冬の中でも、特別な寒中水泳は、それなりの準備をすればプラスになると考えられます。つまり、「水泳」も条件次第で良くも悪くもなるわけで、あくまでも自然な捉え方です。算命学の捉え方も、このように自然体で考えて頂きたいと思います。

◆運を開くには

算命学はこのように自然学であるべきです。もしあまりに技法に片寄り過ぎると、「当たり前の捉え方」が出来なくなる危険性があります。運の悪い人の共通パターンは、①偏った考え方に固執する。②いつも物事のマイナス面だけを考える。③物の見方が狭くなる。④不幸な情報を最優先で収集する。⑤人の悪口ばかり言う。これに対して運が良くなる人の共通パターンは、①こだわりを持たない。②物事のプラス面を主に考える。③物の見方を広くする。④幸せな情報を最優先的に収集する。⑤人の良い面を見て、ほめる。

さて皆様はどちらのパターンが多いでしょうか。どちらの生き方をしても結構ですが、運の悪い人の五パターンを実践していて幸せになった人は私の知る限りでは一人もいません。もし三つ以上、不運のパターンを実践している方がおられたら、幸運のパターンを一度試してみてください。あなたの何かが変わる事は間違いありません。不運のパターンには陰の気が宿っているのに対し、幸運のパターンには陽の気が一杯です。そして算命学では陽の気が幸せを呼ぶと解説しています。

◆算命学は基礎が大切

算命学は確かに奥の深い学問です。それだけに次々と学びたいという気持ちがあり、焦るのもわかります。しかし、宗家の人知を超えた見事な予測も、我々弟子たちが予測する内容も、要は陰陽説、五行説を基にした理論の域を超えません。算命学を学び、四年、五年を経過すると、さまざまな技術に囲まれて、わかるどころか混迷を深めるばかりになります。そのような時、宗家は「単純な基礎の中にヒントがあり、答えがあります。基本に戻りなさい。」といつも笑顔でおっしゃって下さいました。

「複雑なものほど単純化して答えを出すのが算命学です。」「算命学は思想の柔道だから、力まず硬くならず、柔らかい捉え方をしてください。」とおっしゃった宗家のお言葉が耳元に残っています。算命学と

ご縁が出来てから三十年あまり。未だに宗家よりご指導頂いた基礎を見直しています。算命学にご縁のできた皆様には、是非とも宗家の言葉をかみしめていただき、迷ったら基礎に目を向けてください。そこに未来を大胆に予測出来るヒントが必ずあります。

◆鑑定をしたい方へ

算命学を学び始めると、どうしても人の運勢が気になり、鑑定したくなるものです。これはなにも学校できちんと学んだ人だけでなく、市販の本を購入した人でも、その本を片手に人を占い、アドバイスしたくなる。当然と言えば当然かもしれません。

ともかく算命学で占えば当たるし、相手の方が驚き、時に感謝されるのですから、たとえ相手から頼まれなくても次々に人の運勢を観たくなるのは人情でしょう。

私は東京や大阪、また地方の講演会の場で、生徒さんや算命学のファンという方々といろいろお話をする機会が多いのですが、その折に、「自分は将来、算命学の鑑定を職業にしたいけれど出来るでしょうか？」という質問をよく受けます。

出来るか、出来ないかと聞かれれば、「どなたにでも出来ます」とお答えします。しかし、その折に必ずいくつかのアドバイスをするようにしています。場合によっては「今のあなただと鑑定をすると疲れてご自身にマイナスになるから、もう少し準備をなさってからの方がよいですよ」とも言います。

◆すぐに鑑定をしては駄目なのですか？

すぐ鑑定しては駄目と聞くと、当然ながら不満な顔をされる方がおられます。そして「自分はこれだけ占いの技術を知っている」とか、中には「宗家の時代から算命学とはご縁があるから・・・」と、さまざま形で自分は大丈夫だと話されます。一つだけご理解頂きたいことは、私自身も含め、ご生前の宗家と縁のあった者は、恵まれていたという事ではあっても、それが偉いというわけでも特別算命学を理解出来たという証拠でもありません。宗家にお目にかかれた事で、多くの教えを受け、ご自身の人生にプラスになったことは当然だと思います。その貴重な得難い体験は、ご自身の心の宝ではあっても、だからと言って、それで間違いなく鑑定出来るとか自分は大丈夫だというわけではありません。

◆鑑定者には何が必要なのですか？

鑑定をするということは、相手と気が通じ合う事であり、相手の悲しみや苦しみが自分の人生に移ってくることを意味します。また同時に自分の持つ気が相手に流れてゆくことでもあるのです。ですから、それを十分に理解して、運気をコントロール出来るようになってから鑑定をしないと、鑑定者も相手の方も不幸になってしまう危険性があるのです。

◆鑑定者に必要な事

そこで鑑定者になるには出来れば次の条件を満たすことをおすすめします。それが鑑定をする人と相手の方の運勢を守ることになるからです。

1. 段位を取る

これはその人がどこまで算命学の技術を理解したかを客観的に証明する事であり、最低限必要なことです。段位がなく、習いたてに人の人生を左右する鑑定をすることは危険です。

2. 自分で自分の悩みを解決できる

人へのアドバイスをすることは出来ても、いざ自分が悩みを抱えるとパニックになる人は意外と多いようです。これを「紺屋の白袴」とでも言うのでしょうか。自分の事を棚に置いて、という事は世の中に多いのですが、算命学の先生が自分に降りかかる問題を解決出来なくて、すぐにパニックになるようでは人へのアドバイスは難しいでしょう。鑑定者は自分の苦しみを、まず自分で乗り越えられることが大切です。

3. 速やかに頭の切り替えが出来る

離婚の相談を受けた直後に、次の相談者が結婚の相談だったとします。前の相談内容を心の中に引きずらずに（直前の鑑定内容をむしろ忘れるくらいの）新たな気持ちで鑑定が出来なければいけません。これは当然ですが、たとえば鑑定の直前に何かイライラすることがあったとして、そのイライラに心が半分引きずられたまま鑑定を始めることはありませんか？すぐに心を切り替えられるように、心の拘りをなくす努力を普段からしてみてください。鑑定は相手の身になって真剣に。終わったら何事も心に残さない事が大切です。

4. 気の大切さを理解できる

悲しみの気が宿る音楽を好んで聞いたり、狂った画家の描いた絵を寝室に飾っていることはありませんか？例えば名曲であっても「運命」や「悲愴」、あるいは現代風とはいえ、麻薬患者が作曲したような音楽を好んで聴いていませんか？またムンクやゴッホ、あるいはゴヤのような大家であっても、ある時期から精神的に障害を受けたような人の描いた絵を好んで家の中に飾っていませんか？こういうマイナスの気に鈍感であったら、鑑定をしていても自分が悪い気を受け、また相手に悪い気をうつす危険があります。人様の鑑定をする人にはこのような点にも常日頃から敏感になっておく必要があります。

5. 常にプラス思考を持つ

何かにつけて落ち込むのが人間。どれほどの人でも人間は心が弱いものです。算命学では不運な人は全て物事をマイナスに考えるといます。人様の運命を観ようとする人は、どれほどの逆境であっても、物事をプラスに考える工夫をして頂きたいと思います。

「人間界において解けない問題はない」と宗家はおっしゃっておられました。どんなに辛い、厳しい状況であっても、必ずそこには開ける道があります。それを見つけられるようになった時、はじめて算命学の立派な鑑定者だと言えます。悪い事を当てているだけで満足している人は、結局最後には自分の運を著しく落とし、悲惨な人生となってしまいます。これだけは是非避けて頂きたいと心より思います。

算命学の智恵（一）

算命学総本校 高尾学館 学校長 中村嘉男 著 より一部ご紹介しました。

※高尾学館ホームページより購入できます。